

昭和大学附属烏山病院だより

# あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 岩波 明  
〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭  
〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11  
〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第 1 6 8 号

[ 2 0 2 1 年 8 月 3 1 日 発 ]

## 東京五輪オリパラボランティアに参加して

C3 病棟 師長 沢田 祐子

日本における五輪オリンピックは2回目、私は生まれていても幼児のため記憶に残ること無く終わり、記念に今回の開催を肌で感じたいと昭和大学からのボランティア募集に手を挙げ参加しました。活動場所はお台場海浜公園でオリンピック・パラリンピック共にトライアスロンが主でした。他にはマラソンスイムでした。参加登録で提出書類にすっぴんの自撮り写真を送ったら、そのままアクレディテーションカードの顔写真になっていたので毎回セキュリティチェック時に軽率さを後悔しました。



ボランティアは e-learning でオリンピックの歴史やボランティア活動における教育全般、多くの役割名称を略語で理解し、報連相時に使用するなど研修は盛り沢山でした。ユニフォームを受け取りにいった時は感染対策上、会話せず5分間で6種類のサイズをフィッティングして決めるという、慌ただしいものでした。活動開始2週間前から健康管理をチェックするよう義務付けられ、毎回活動終了したら健康情報をスマホアプリで報告しました。PCR検査を最終日に任意で受けてきました。きっと連絡がないのでウイルス検出せず、だったのでしょ。



1つの競技場で1日中、本当に多くの方が活動しているのに驚きました。組織委員会の指示のもとで交通整理や会場整備、医療、受付、インフォメーション、案内、休憩所のボランティアも役割別に活動していました。他の職種では警察官、自衛隊、警備員、消防士、救命救急士、潜水士、清掃員、検体検査技師、整備士等々もっと他にもいたはずで。

競技場に入るには空港並みのチェックがあり、顔認証とアクレディテーションIDとの確認、エクス線と目視での荷物チェックを受けてから入りますが、初日に缶コーヒーを持ち込んでしまい、「飲むか捨てるか」と迫られましたので、飲みきりました。各国の選手団も同じ場所でチェックイン。毎回ドーピングやPCR検体を大量に持ち込まれていることも見れました。

毎回朝 5 時から 5 日間観客用医務室で傷病者が来るか、無線で選手用医務室の林先生や組織委員、会場外を巡回するボランティアと連絡を取り合い、待機していました。7 月 29 日は台風が来た後のバイクやマラソンコースが濡れていて転倒による外傷で 4 名の選手を待機していた救急車で搬送するなど、選手用医務室は応急処置や搬送手配に大忙しだったようです。担当の観客用医務室は無観客のため、観客が選手付き添いやメディア、オリパラ関係者だったので選手用医務室と異なり暇でした(笑)。観客がいたら、熱中症対応に追われたことでしょう。私がボランティアした中で観客用医務室には虫刺され後に化膿したカナダ国籍のボランティアの方で海外からもボランティアが来ていることを知りました。パラリンピックでは最終日に当たりましたので念願の競技コース内に入ることができ、多くのボランティアや組織委員の方々と活動を無事に終わることを喜びあい、ゴールの所で記念撮影できました。本当にトップアスリートが必死に競技している姿を見てまさしく「鉄人」を実感でき、感動することができました。記念すべき東京五輪に附属病院の方々と知り合い、楽しく活動できたことに感謝しております。



## 大人の作法プログラムの紹介

N・Tさん

今回はデイケアプログラム「大人の作法」を紹介します。

このプログラムでは、テーマを決めてそれぞれ意見を出し合い、困っていることを今後の参考にするものです。大きなテーマとしては、「コミュニケーション」「社会人としてのマナー、ルール」などです。その中でさらに細かく分かれて、「失敗を繰り返さない方法」「親亡き後を考える」「何がルール、マナー」などについて話し合いをしています。簡単に結論がでないことばかりですが、私たちにとってはとても大事なことです。毎回、参加者が意見を出して、デイケアスタッフが話をまとめています。いろいろな方の考えを聞けるので、テーマを出した方は参考になっていると思います。以上、デイケアプログラム「大人の作法」の紹介でした。



# 令和3年度鳥山病院ワークショップ



7月31日(土)、鳥山病院にて2021年度ワークショップが開催されました。テーマに沿って、医師・看護師・薬剤師・事務員等多職種で構成されたチームが編成され、話し合いました。

ワークショップとは病院をより効果的・効率的に運営するために具体的方策を検討・提案するものです。以下各チームの方にお話しを伺いました。

## I 自殺企図防止について

看護師 浦口 美穂

鳥山病院では毎年夏、テーマを決め、多職種で検討するワークショップが開催されています。私のグループのテーマは「自殺企図防止」で、精神科、臨床薬理研究所、看護部、精神保健福祉室、心理療法室、事務課からなる8名で話し合いをしました。

今回私達が話し合う上で参考にしたのは、2015年に報告された、病院での自殺企図発生状況の全国調査です。この調査によると、発生曜日は日曜日、土曜日の順で多く、発生時間帯は14時～15時台、16時～17時台がほぼ同数で多いという結果でした。これは、医療者の人数が少なかったり、人数はいても手薄になっている時間帯といえます。平日や午前中は検温や回診があります。逆に休日や午後は白衣姿がまばらで、私達は患者さんが声をかけにくかったり、不安に感じているのではないかと考えました。そこで私達ができることとして、話しやすい雰囲気を作り、平日だけでなく休日や午後の時間帯も意識して患者さんとコミュニケーションを取ろうということになりました。患者さんにそのことを実感していただけるようケアの充実をはかっていきたいと思います。

## II 「院内デジタル化について」に参加して

看護部 平井 尚子

私は、鳥山病院ワークショップ参加は2回目で、10年ほど前の1回目参加時は、1泊2日の宿泊も兼ねた形式でした。今回2回目は院内、しかも半日で……。始まるまで、以前を知っている私は少しだけ物足りなさを感じていました。しかし、終わってみると、4時間という短い時間ではありましたが、多職種でさまざまな立場から意見を交わせたあの体験は、1泊と同じくらいの価値を実感することができました。

テーマ②院内デジタル化の検討は、まず院内デジタル化案を各部署から募集し、「すぐに実行できるもの」と「事業計画規模になるもの」に分けながら有用性や実現の可否からスタートしました。

デジタル化案は大きく3つに分けられ、1. ペーパーレス化 2. 予約システムの改善 3. 電子カルテのバージョンアップ。しかし、2と3については「事業計画規模になるもの」に相当するため、「明日から取り組める！」1. ペーパーレス化について具体的対策案を話し合いました。すると、驚いたことに、鳥山病院は現在コピー代だけでなんと月30万円もかかっているそうです。

みなさんは、この価格どのように思われますか？本当にその「印刷」必要？ カラーコピーでなくてはダメですか？と、ふと自分に問いかけてみてください。そうです、職員ひとりひとりがコスト意識を高めることこそが、未来の予約システム改善や電子カルテのバージョンアップに繋がります。

## Ⅲワークショップを終えて

外来師長 阿部 朋晋

今年度から烏山病院外来師長になりました阿部 朋晋（あべ ともくに）と申します。病院の窓となる外来師長として、受診を希望されるご本人やご家族が安心して受診いただけるよう、スタッフ一丸となって対応いたしますのでよろしくお願い致します。

烏山病院では毎年ワークショップを行っていますが、2021年度は7月31日（土）の午後半日を利用して、リハビリテーションセンターを会場にして実施いたしました。当日は3つのテーマを基に3グループに分かれて現状の分析、問題点の抽出、解決策の提示をおこないました。私は「収支改善に向けた外来部門の拡充について」をテーマに、「環境面・ソフト面・サービス面等の改善策」と「新規患者増加策」の両面からディスカッションをおこないました。病院スタッフ対象の事前アンケートで指摘された改善点には、外来患者の皆様から意見を頂いていたものもありました。通院を検討している方、通院している方など、皆さんが通院しやすい外来部門について、午後のみとはいえ職種、役職を超えて活発な意見交換をおこない、まずは個人や他の医療機関に対する広報窓口となるホームページの情報を拡充し、精神科専門病院の敷居を下げ、通いやすい、相談しやすい烏山病院を目指していきます。今後患者様や地域の皆様に満足いただける外来を目指してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。



### 総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《7月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,845(8,431) 5,917(6,069)

◇一日平均患者数 285.3(281.0) 236.7(233.4)

◆診療実日数 31(30) 25(26)

### 【編集後記】

皆さんは今年の夏、どのようにお過ごしになりましたか。コロナ禍でなかなか外出がしづらい状況ではありましたが、私はテレビでオリンピック・パラリンピックの応援をしつつ、通勤の道すがら鳴り響くセミの鳴き声に夏を感じる毎日でした。来年こそは海に行ったり花火をしたりできるといいなあと今から期待に胸を膨らませています。

厳しい残暑が続くものの、最近では涼しい日も増え、少しずつ秋の気配を感じられるようになってきましたね。

季節の変わり目は体調を崩しやすいので、どうぞお身体に気を付けてお過ごしくださいね。

(広報委員 川島)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は [k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp) となります。

